

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
帝王賞	2019/6/26	JpnI	大井	2000m	ハイペース	良	展開、末脚の持続力

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	チュウワウイザード	牡4	57	川田	キングカメハメハ	ミスプロ系	デュランダル	サンデー系	A	A	B	B	A	B	▲	
2	2	アポロケンタッキー	牡7	57	戸崎	Langfuhr	ノーザン系	Gone West	ミスプロ系	D	B	C	C	C	C		
3	3	モジアナフレイバー	牡4	57	繁田	バトルブラン	ミスプロ系	フレンチデピュティ	ノーザン系	A	B	B	B	A	A	◎	
	4	グレートパール	牡6	57	鮫島克	キングカメハメハ	ミスプロ系	デヒア	ノーザン系	D	B	C	C	C	C		
4	5	オメガパフューム	牡4	57	レーン	スウェプトオーヴァーボード	ミスプロ系	ゴールドアリユール	ノーザン系	A	A	B	B	A	B	○	
	6	サウンドトゥルー	セ9	57	森	フレンチデピュティ	ノーザン系	フジキセキ	サンデー系	D	A	B	B	C	C		
5	7	オールブラッシュ	牡7	57	田辺	ウォーエンブレム	ミスプロ系	Crafty Prospector	ノーザン系	C	B	C	C	C	C		
	8	リッカルド	セ8	57	矢野	フサイチリシャール	ノーザン系	オペラハウス	ノーザン系	D	A	B	C	C	C		
6	9	スーパーステーション	牡5	57	阿部	カネヒキリ	サンデー系	ワイルドラッシュ	アイスカベイト系	B	B	B	C	B	B		
	10	ミツバ	牡7	57	和田	カネヒキリ	サンデー系	コマンダーインチーフ	ノーザン系	C	B	C	B	C	C		
7	11	インティ	牡5	57	武豊	ケイムホーム	ミスプロ系	Northern Afleet	ミスプロ系	A	A	B	C	B	B		
	12	サブノクロヒョウ	牡6	57	藤本	ロージズインメイ	ヘイロー系	カコイシーズ	アリダー系	D	B	C	B	C	C		
8	13	シュテルングランツ	牡8	57	川島	ステイゴールド	サンデー系	Two Punch	ミスプロ系	D	D	C	D	D	D		
	14	ノンコノユメ	セ7	57	真島	トワイニング	ミスプロ系	アグネスタキオン	サンデー系	C	B	C	B	C	C		

隊列図	見解	ラップタイム
シュテ インテ スーパ オメガ チュウ オール モジア ミツバ グレイ リッカ アポロ サブノ サウン ノンコ	<p>2019年の上半期の掉尾を飾るのに相応しいメンバーがそろった帝王賞。本来であれば、ここにルヴァンスレーヴ、ゴールドドリームまでが名を連ねる予定だったが、2頭とも直前に回避。それでもJRA、地方ともにビッグネームがそろい、文字通り現役ダート中距離最強馬決定戦の様相を呈している。レースのカギを握るのは展開になりそうだ。昨年の東京大賞典で逃げて見せ場を作ったスーパーステーション、逃げて連戦連勝してきたインティ、そして行き切ってナンボのシュテルングランツ。まずはこの3頭の中でどの馬が逃げるのかを予想するのが重要になる。そこで私が予想した隊列図は左の通り。(中略)まさに昨年の帝王賞のゴールドドリーム、東京大賞典のオメガパフュームのように仕掛けをワンテンポ遅らせた馬に分があるレースになるだろう。それでは予想にいきましょう。</p> <p>本命はモジアナフレイバーがダート界の頂点に立つ。(以下省略)</p>	回顧 次走狙い馬

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	チュウワウイザード	▲	振り返れば、デビュー以来、【7.2.2.0】と一度も3着以内を外していない堅実派。1枠1番はネックだが、前が速くなれば、馬群はバラけるはずで、不利を受けるリスクも少ないだろう。		
2	2	アポロケンタッキー		16年東京大賞典勝ち馬も、その後の大井2000mのG1（JpnI）では【0.0.0.5】と苦戦している。年齢を重ねて衰えが見られ、少頭数のストレス負荷の少ない競馬でしか好走できなかった。内枠も良くない。今回は苦戦必至だろう。		
3	3	モジアナフレイバー	◎	前走大井記念の走破時計は東京大賞典よりも優秀といえる数字。東京大賞典は良、大井記念は重なので、確かに馬場差を考慮する必要があるが、大井競馬場は重でも時計が極端に出ることはなく、実際に馬場差もそこまで感じられなかった。G1（JpnI）レベルに達していると判断していいだろう。		
	4	グレイトパール		佐賀に移籍して再起を図るも、今年の佐賀記念では勝ち馬ヒラボクラターシュから1.9秒差の4着。連戦連勝で17年平安ステークスを制した時の勢いにはほど遠い。ダートグレード、それも一級線相手ではさすがに分が悪いか。		
4	5	オメガパフューム	○	前走平安ステークスは差し、追い込み決着の中、3～4コーナーから仕掛け気味に進出しての3着。見方によっては勝ち馬チュウワウイザード以上のパフォーマンスだったとも解釈でき、年明け初戦、馬体重+12キロ、斤量59キロなどの条件を考えても、価値のある3着だった。		
	6	サウンドトゥルー		大井2000mのG1（JpnI）では常に上位争いに加わっていたが、前走同条件の大井記念でまさかの13着に大敗。「位置を取りに行っただけ」が原因とはいえ、2走前のプリリアントカップも物足りず、ここに来て走る気持ちがブツンと切れてしまったのでは。巻き返しは難しいだろう。		
5	7	オールブラッシュ		大井2000mのG1（JpnI）では【0.0.0.3】とすべて掲示板外に敗退。一級線相手では分が悪い上、大井の外回りコースは向いていない。今回も苦戦濃厚だろう。		
	8	リッカルド		南関東に移籍し、重賞4連勝と活力を取り戻したが、昨秋以降、地元馬相手にも勝ち切れなくなり、今年初戦の大井記念でも勝ち馬モジアナフレイバーから2.5秒差の7着に敗退。年齢的にピークを過ぎたと見てよく、巻き返しは難しいだろう。		
6	9	スーパーステーション		昨年の東京大賞典がハイペースで逃げながら勝ち馬オメガパフュームから0.8秒差の6着。文字通り負けて強して展開ひとつでG1（JpnI）でも通用するメドは立った。それでも今回は同型に徹底先行型のシュテルングランツ、早め押し切りを狙うインティがいるのが厄介。		
	10	ミツバ		2走前の川崎記念は諸々が噛み合っただけの勝利。一級線相手では一枚見劣る感があり、馬券圏内に加わるまでは難しいのでは。対チュウワウイザードにも2戦2敗と敗れている。		
7	11	インティ		想定通りの展開になれば、よほど能力が抜けていない限り、押し切るのは難しいはず。ケイムホーム産駒はJRAだが、ダート1900m以上だと通算成績が【2.1.1.41】（勝率4.4%、連対率6.7%、複勝率8.8%、単回収率12%、複回収率14%）と全く振るわず、2000mのポテンシャル勝負では脆さが出そう		
	12	サブノクロヒョウ		プリリアントカップ10着、大井記念9着と2戦連続で地元馬相手に完敗。ダートグレードそれも一級線がそろったJpnIでは何も出来ずに終わるだろう。		
8	13	シュテルングランツ		行き切ることが出来たとしても、直後に強力なスーパーステーション、インティが追走。3～4コーナーではお役御免になっているだろう。		
	14	ノンコノユメ		年齢を重ねた影響か近走は淡白な走りが続いている。転入初戦でもあり、常識的に厳しいはず。		